

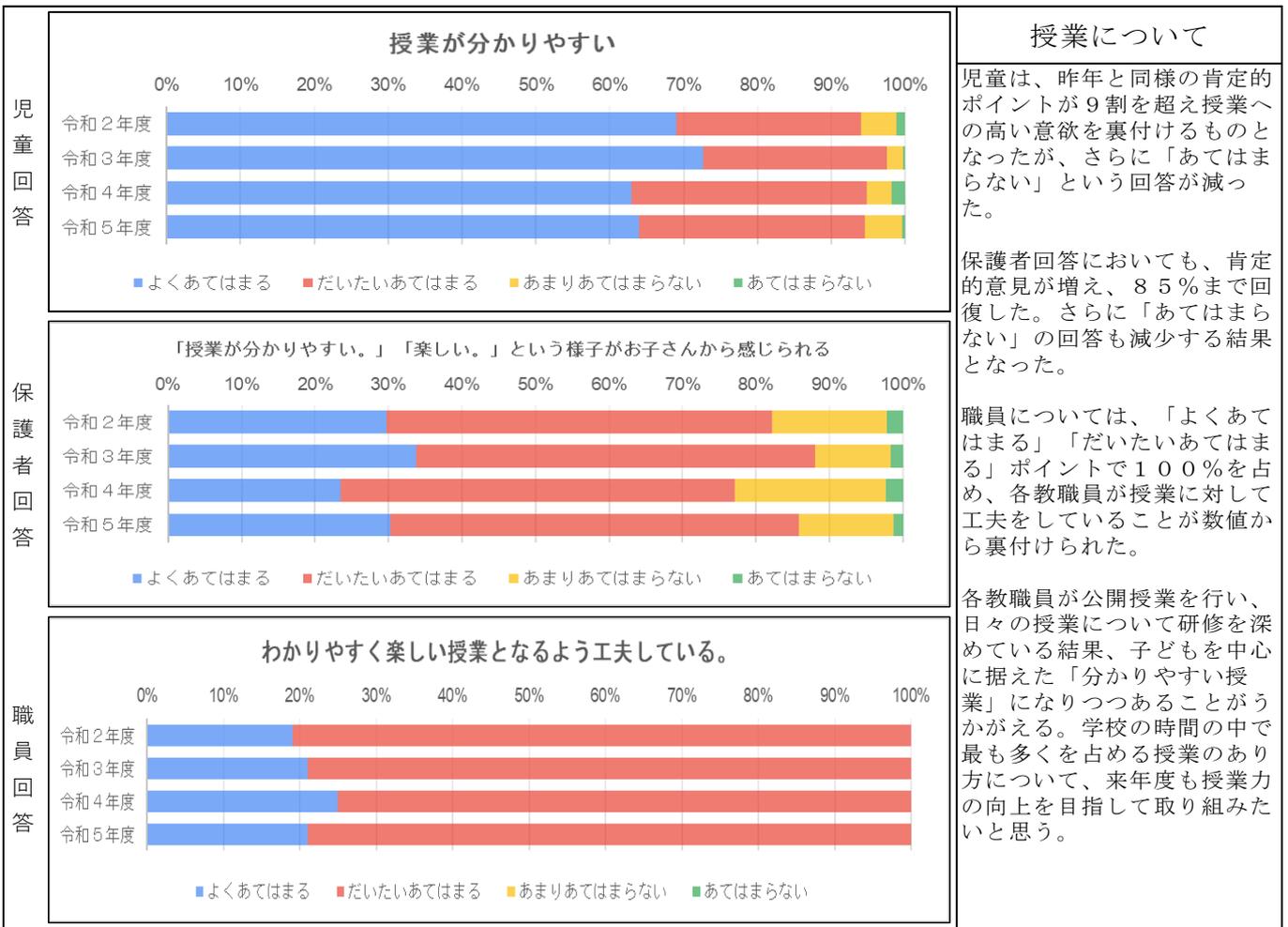
登校について

児童について、昨年度90%の肯定的ポイントであったが今年度は増加した。

保護者の回答も児童同様にこの肯定ポイントが上がった結果となった。コロナ禍で中止されていた行事や学習ができ、児童にとって学習活動が広がってきた成果ともいえる。

しかし、楽しいと感じていない児童も一定割合いることから、児童・保護者一人ひとりの意見に耳を傾けよりよい学校生活を送れるようにしていく必要がある。

職員の中にも、「あまりあてはまらない」という回答もあることから、児童の様子をみとり児童にとって魅力的な学校をつくっていく必要がある。



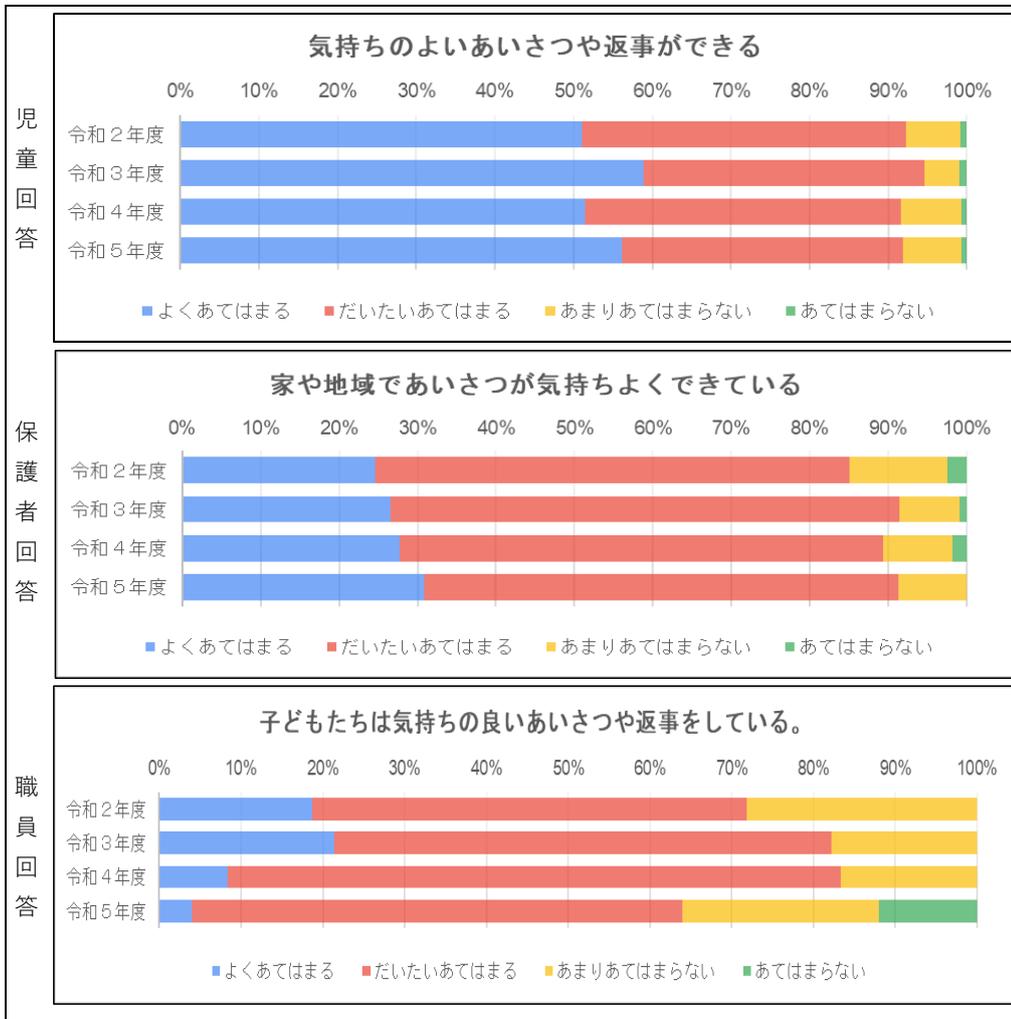
授業について

児童は、昨年と同様の肯定的ポイントが9割を超え授業への高い意欲を裏付けるものとなったが、さらに「あてはまらない」という回答が減った。

保護者回答においても、肯定的意見が増え、85%まで回復した。さらに「あてはまらない」の回答も減少する結果となった。

職員については、「よくあてはまる」「だいたいあてはまる」ポイントで100%を占め、各教職員が授業に対して工夫をしていることが数値から裏付けられた。

各教職員が公開授業を行い、日々の授業について研修を深めている結果、子どもを中心に据えた「分かりやすい授業」になりつつあることがうかがえる。学校の時間の中で最も多くを占める授業のあり方について、来年度も授業力の向上を目指して取り組みたいと思う。



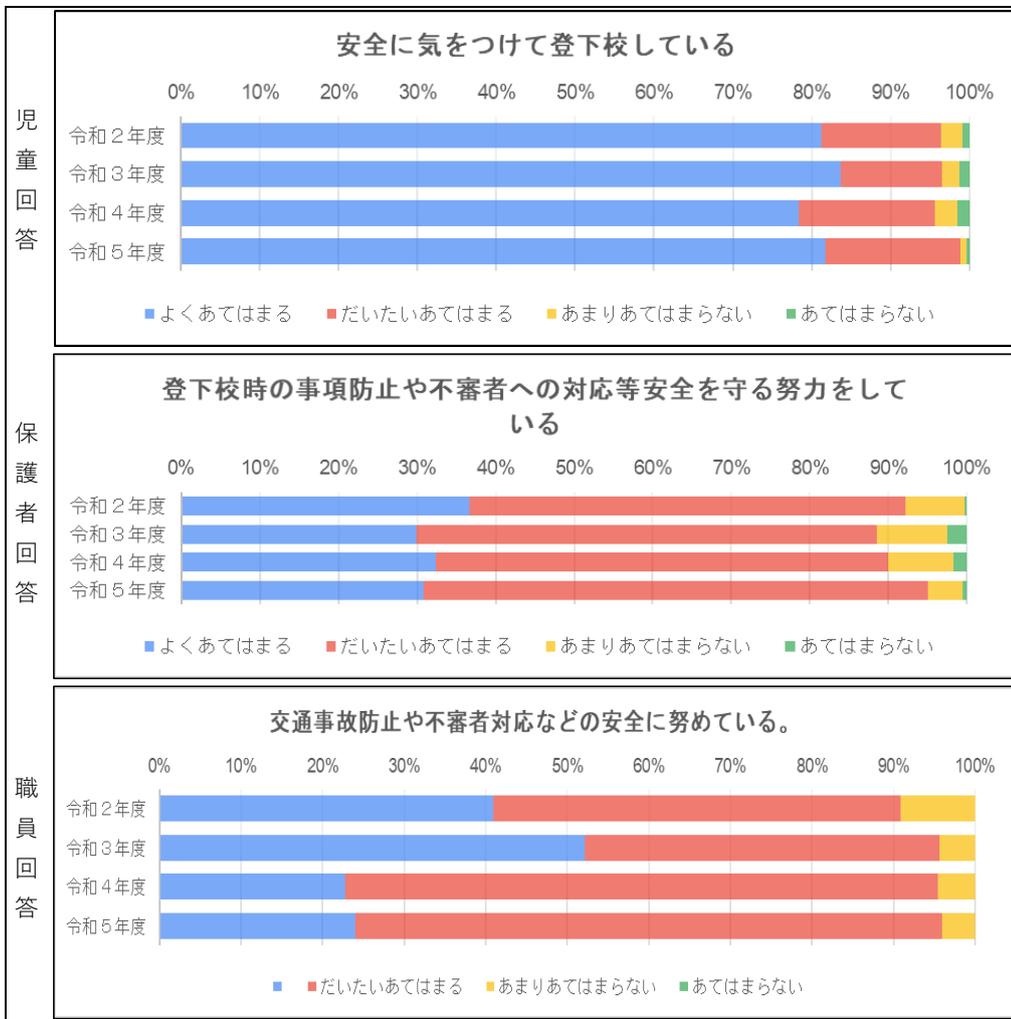
あいさつについて

児童について、9割以上の児童があいさつができていると回答している。また、あてはまらない（あいさつができない）と回答した児童が昨年度より減少した。

保護者からの回答でも肯定的意見が9割以上となっている。その中でも「よくあてはまらない」という回答がなくなった。

地域の方からもあいさつがよくできているというお褒めの言葉をいただいたように児童が地域であいさつができていることがわかった。

しかし、職員からの回答では、否定的意見が増加した。地域に比べ校内では、あいさつをしている児童が少ない印象を持っているようだ。校内で友だちどうして、明るいあいさつができるよう今後も取り組んでいきたい。

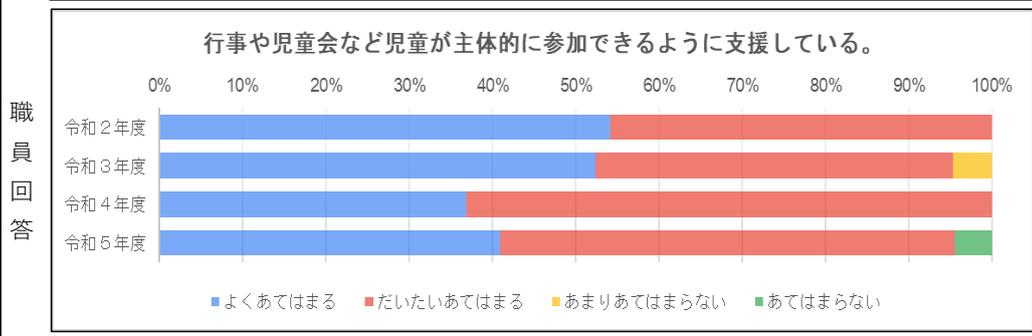
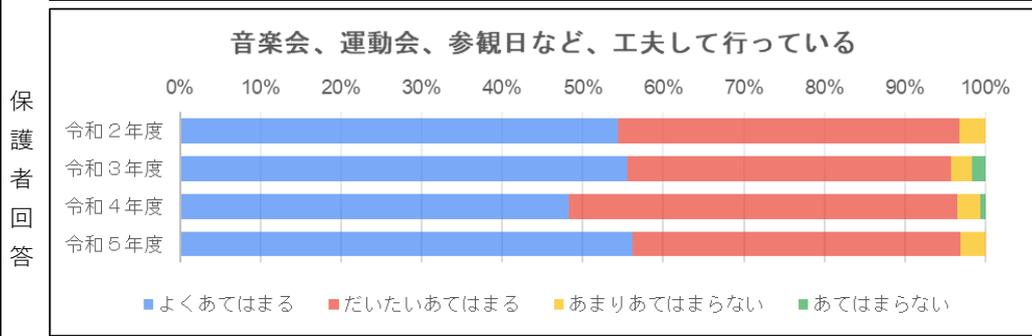
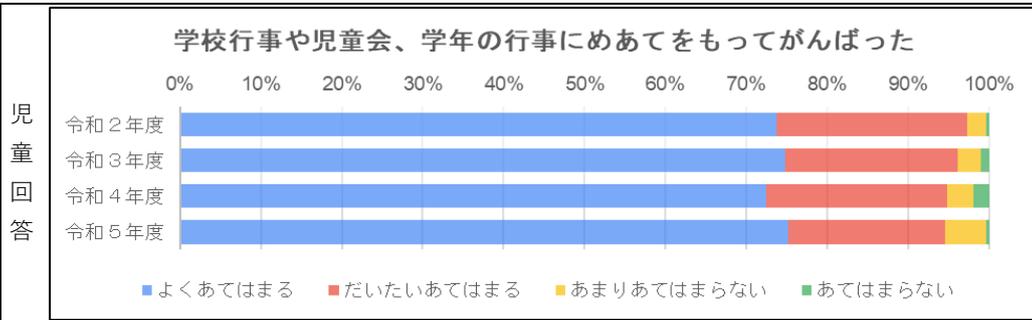


安全面について

児童、保護者、職員全てにおいて肯定意見が9割を超えることができた。

今年度は、安全面に関して以下のことを行った。

- 不審者対応訓練を児童参加のもと行った。
- クマの出没情報が入り次第、スクリーンで保護者にお知らせするとともに支部下校や時間をそろえた下校を行い、職員が巡回した。
- 職員による下校時の安全指導を定期的に行った。
- 第3回目の避難訓練をより現実に近い形にし、児童・教職員に日時を知らせずに行い、状況判断をしながら避難する訓練を行った。
- 交通安全教室を3年ぶりに開催し、道路での歩き方について姉妹学級のペアで確認し合った。
- 見守り隊総会において、見守り隊の方、PTA役員の方などと一緒に地区の危険個所を確認した。来年度も引き続き行っていきたい。



行事について

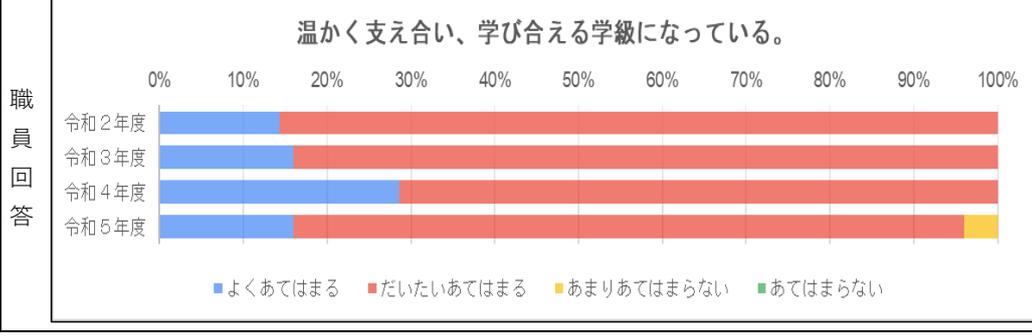
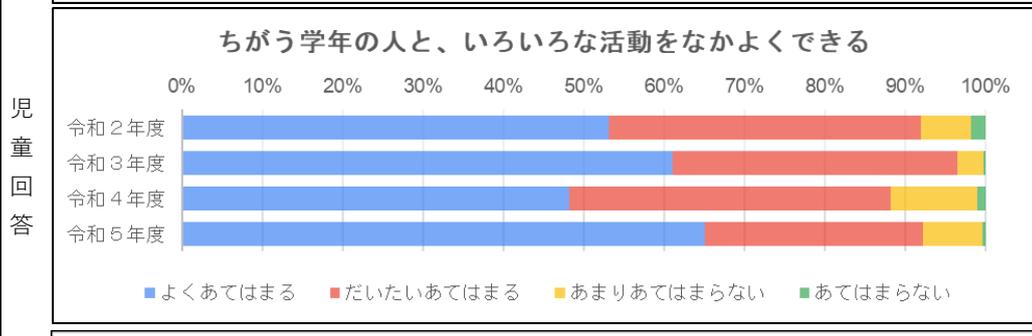
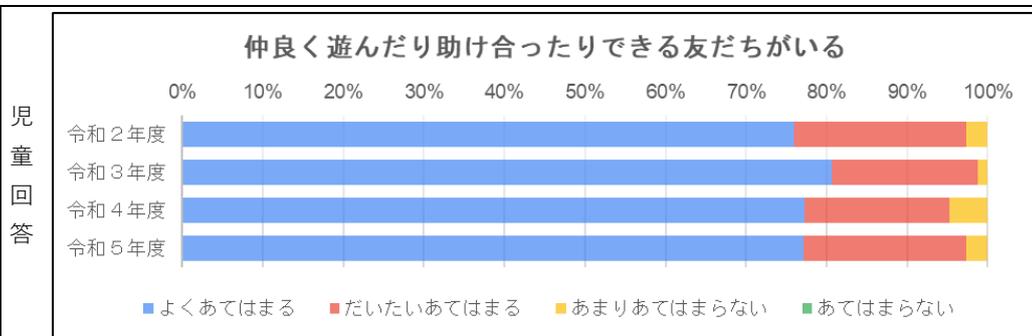
児童、保護者、職員それぞれ95%以上の肯定的意見での回答となった。児童に関しては、「よくあてはまる」と回答した児童が増加した。しかし、否定的な意見も微増になっている。行事等のめあてを明確にして取り組んでいく必要がある。

運動会や音楽会では、コロナ前のように保護者の参観に制限を設けることなく、多くの皆様の前で活躍する場をもつことができた。児童もそれに向け、一生懸命練習をし、充実した運動会・音楽会となった。

社会見学等もコロナ禍前と同様に行われ、普段見ることができない場所を見学し、よい学習の機会となった。

児童会に関しては、締めくくりの一大イベントである児童会祭りが11月に実施され忙しい中で6年生が準備・運営を中心に行った。

来年度に向けて、コロナ禍前に行っていた5年生の宿泊行事をどのような形にするのが、子どもたちにとって有意義なのかしっかり検討していきたい。

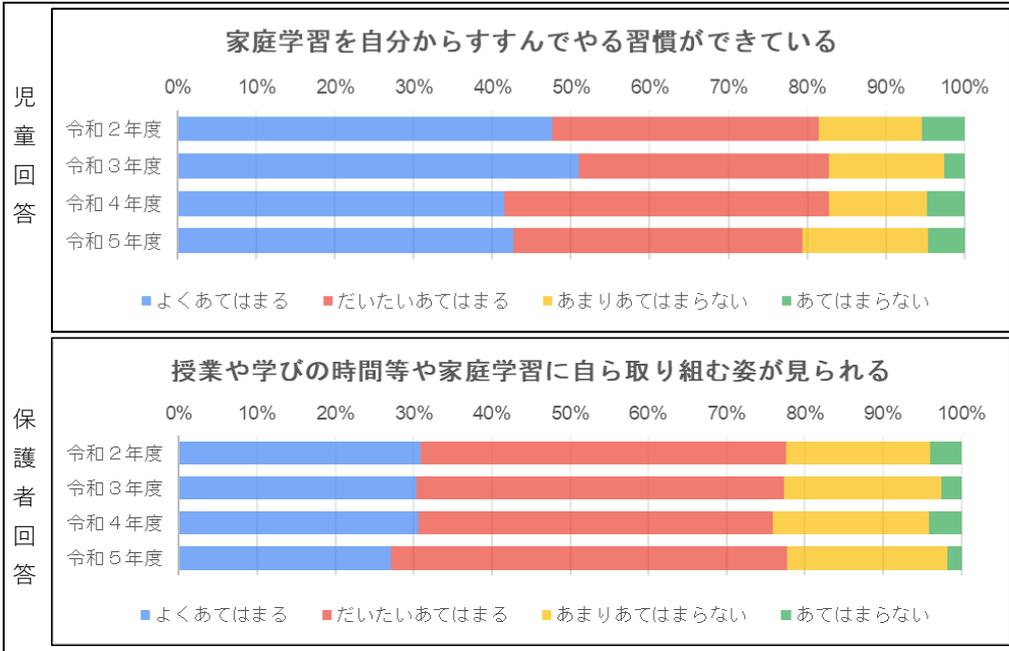


交友関係について

注) この欄は、児童回答が1段目、2段目に2つ並んでおります。

児童の二つのアンケート項目を見比べて、上段の児童回答では、昨年より肯定的な意見が増え、「あまりあてはまらない」という回答が減った。中段のアンケートでは、姉妹学級と交流する機会が増えたこともあり、「よくあてはまる」と回答した割合が過去最高になった。休み時間などでも他学年合同でサッカーする姿や、6年生が1年生の教室で遊ぶ姿などが見受けられることからこのような結果になったと考えられる。来年度も異学年交流を大切に考え、機会を設けていきたい。

下段のアンケートでは、おおむね肯定的な意見を占めた。「よくあてはまる」の回答が増えるように協働的な活動を仕組んだり、意見を言い合える集団をつくっていきたい。

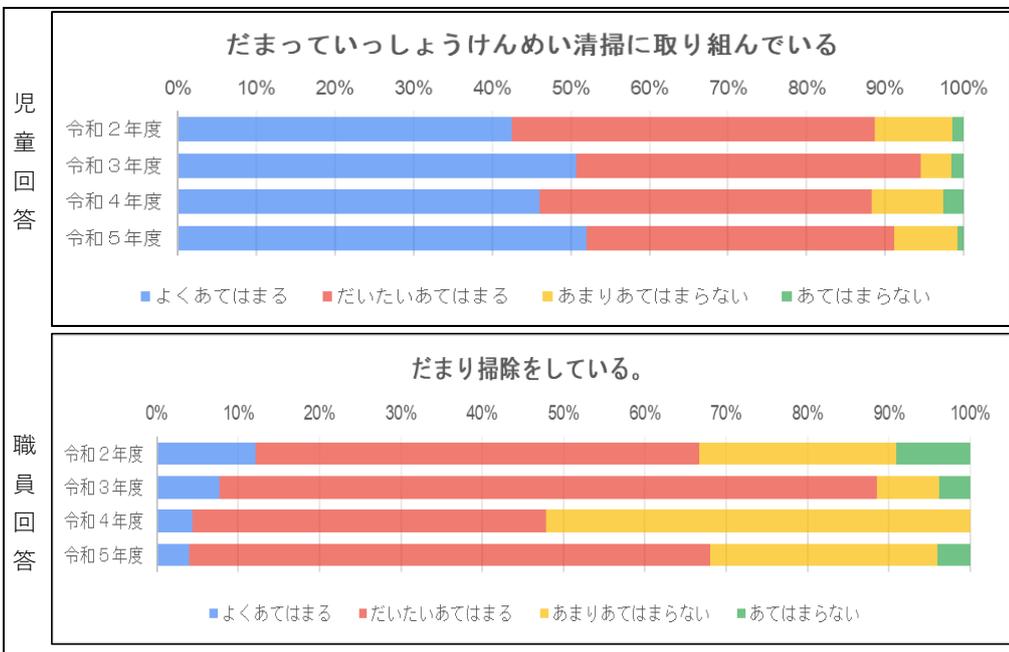


家庭学習

注) この設問は、児童と保護者の回答となります。

児童、保護者ともに家庭学習の取り組みは肯定的ポイントが8割前後で推移している。

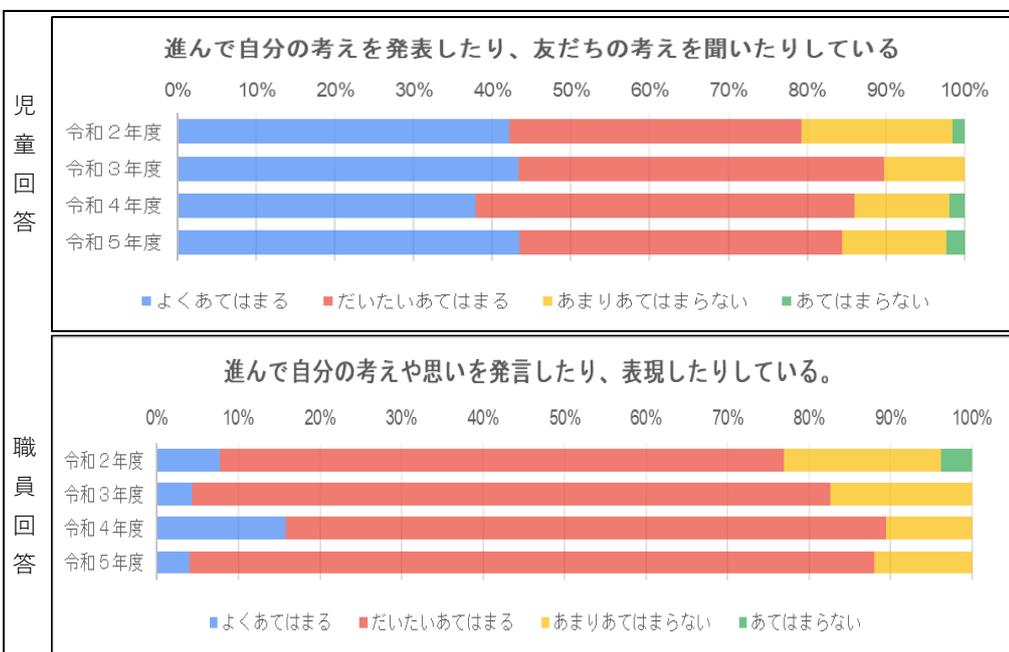
保護者からの記述には、宿題の内容と量についてご意見をいただいた。児童の負担にならないように様子をみながら対応していきたいと考えているが、個人差もありますのでご家庭で支援していただくこともあるかと思います。お子さんの様子を見ていただき、過度の負担になっているようでしたら、各担任までご連絡ください。



清掃について

注) この設問は、児童と職員の回答となります。

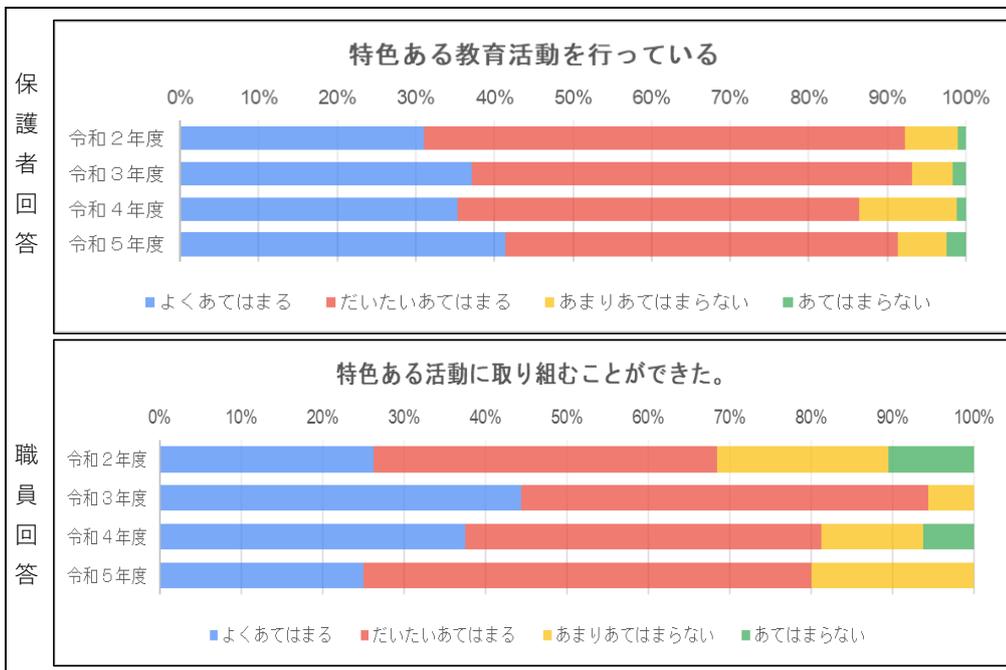
清掃の係を中心に、学校全体の取り組みの決まり事を決め、年度当初に全校で確認をし、清掃態度の改善を目指した。昨年よりは向上してきたことがうかがえるが、職員か他の否定的な意見が30%を超えている。清掃に向かうための姿として汚れを落とすことに集中し、結果静かに清掃を行うことができるというを目指して、係中心に改善策を講じ、児童、職員ともに掃除に向かう伝統を構築していきたい。



発言（発表）について

注) この設問は、児童と職員の回答となります。

コロナ前のように、ペア学習やグループ学習の機会が増えてきているが、肯定的な意見の割合が増えなかった。自分の意見を声に出して発表することに抵抗を持つ児童は一定数いるように感じる。発表に抵抗がある児童は、友だちどうしで相談する場面で、自分の考えが言えるように支援していきたい。職員からの回答では、肯定的な意見の割合がほぼ昨年同様になった。全体、小グループ、隣同士など発表の形態を工夫しながら自分の考えを伝える場面は確保していきたい。

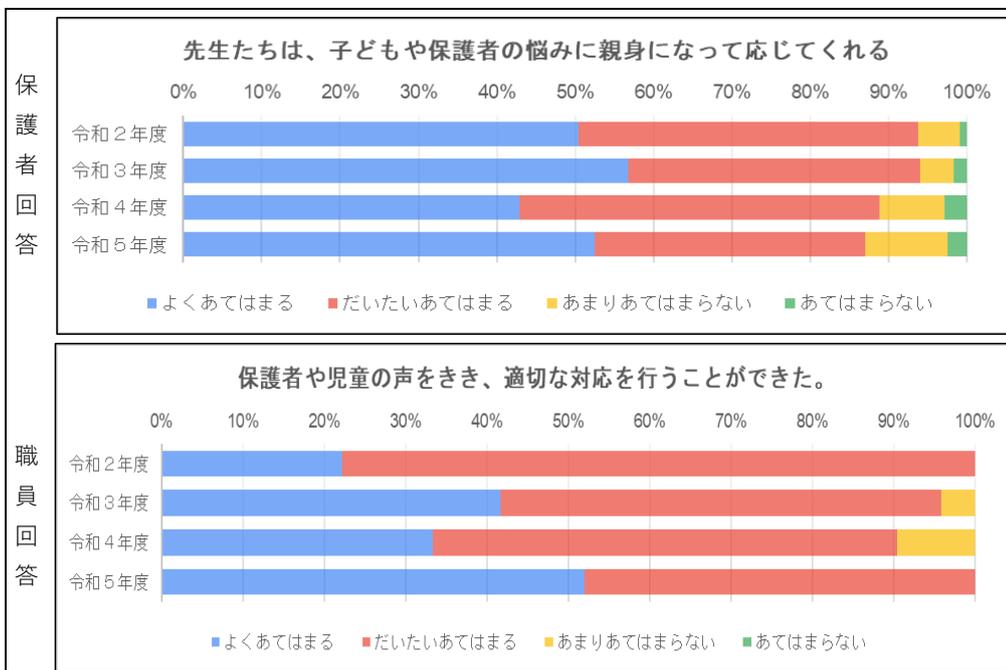


特色ある活動について

注) この設問は、保護者と職員の回答となります。

特色ある活動について保護者からの肯定的意見が増え、職員はほぼ現状を維持した。

コロナの制限がなくなり、料理クラブが復活したり、社会見学で行けなかった場所に行けたりと校外での活動が増えてきたことにより、保護者の方からの肯定的意見が増えた。しかし、職員の中では、あてはまらないと答えた職員が一定数いたことから、さらなる地域素材を使った総合的な学習の時間やクラブ活動を創造していきたいと考える。

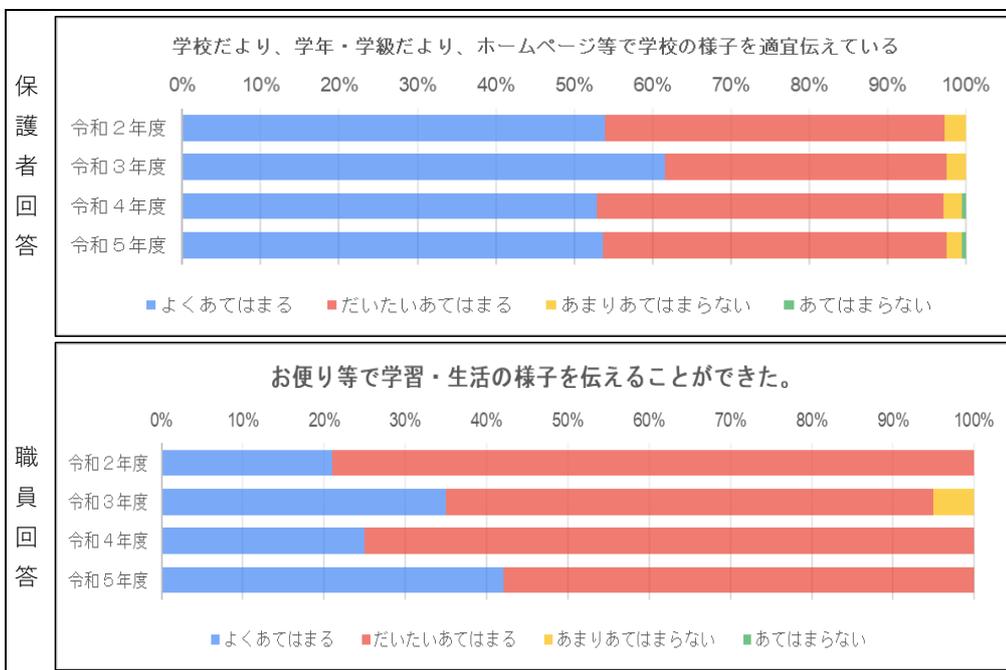


学校、家庭の連携について

注) この設問は、保護者と職員の回答となります。

保護者からの回答で肯定的回答が9割を下回り、否定的な意見の割合が微増となっている。

職員側の受け止めとは異なる結果となったため、まずは、保護者の皆様からの要望をきちんと受け取り、その声に丁寧に対応していくよう改めて職員一丸となって取り組んでいきたい。また、管理職の相談窓口を常設している旨を年度の初めにしっかり保護者に伝えていきたい。



情報発信について

注) この設問は、保護者と職員の回答となります。

全学年で、週1回の学年便り、またホームページについては対外的なイベントがあった際はなるべく早いうちに掲載することに努めてきた。保護者からの回答には情報発信が日常的に行えている様子が表れている。